



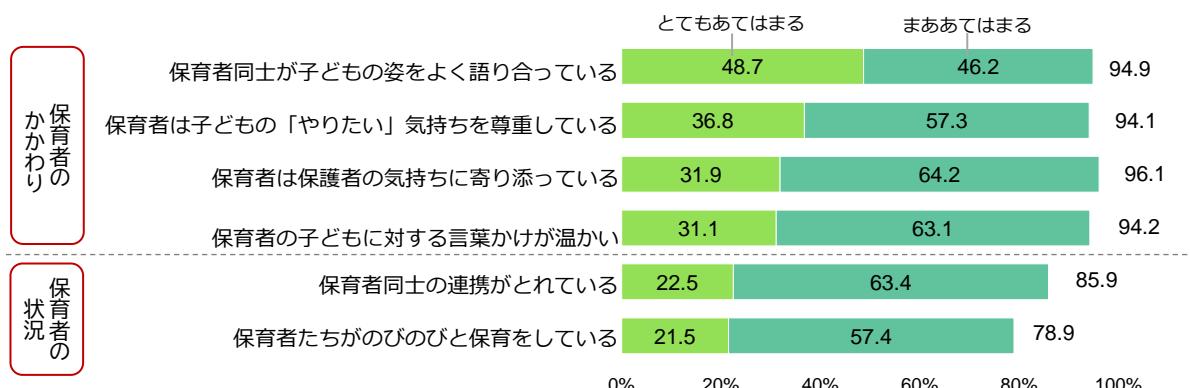
3-1 保育者の状況や園環境

園では、保育者同士が子どもの姿をよく語り合っており、子どもの「やりたい」気持ちを尊重している。

園における保育者のかかわりをたずねたいずれの項目においても、「とてもあてはまる」と「まああてはまる」を足し合わせると、9割を超えている。「とてもあてはまる」の比率に着目すると、「保育者同士が子どもの姿をよく語り合っている」と回答した比率が48.7%と高い(図表3-1-1)。一方、保育者の状況をたずねる項目では、「保育者同士の連携がとれている」は22.5%、「保育者たちがのびのびと保育をしている」は21.5%と低い傾向にある(図表3-1-1)。園環境をみると、「さまざまな表現活動(お絵かき、製作、音楽など)をする」は42.1%、「季節やその時の活動に応じた教材や絵本が使われている」は41.1%と、「とてもあてはまる」の比率は高い。地域とのかかわりは他の項目に比べて低く、「とてもあてはまる」と回答した割合は1割台にとどまる(図表3-1-2)。

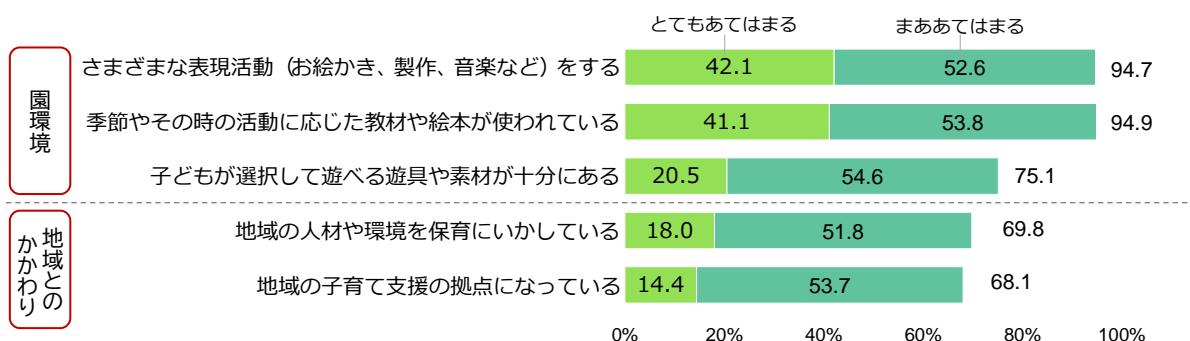
Q 現在の貴園の状況についておたずねします。
下記の項目について、それぞれあてはまるものを1つ選択してください。

図表3-1-1 保育者のかかわりと状況(全体 23年) 保育者回答



※ 「とてもあてはまる」の降順で図示

図表3-1-2 園環境や地域とのかかわり(全体 23年) 保育者回答



※ 「とてもあてはまる」の降順で図示



3-2 園での対話の機会

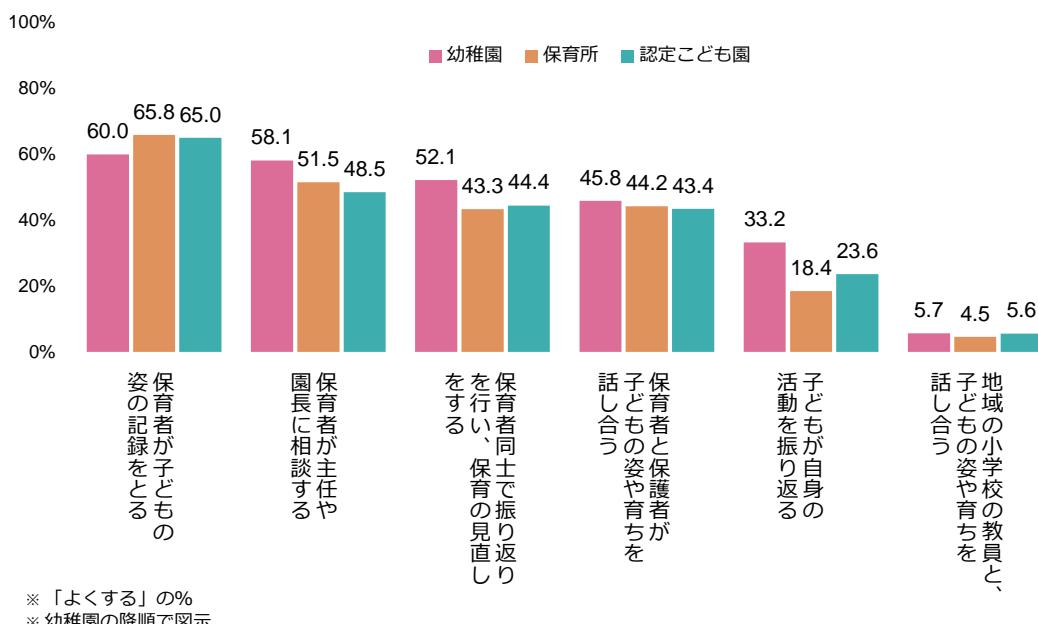
「保育者が子どもの姿の記録をとる」を「よくする」は、どの園種でも6割。「子どもが自身の活動を振り返る」は1~3割。

保育者に対して、園での対話の機会についてたずねた項目では、「保育者が子どもの姿の記録をとる」をよくする園が約6割、「保育者が主任や園長に相談する」「保育者同士で振り返りを行い、保育の見直しをする」「保育者と保護者が子どもの姿や育ちを話し合う」をよくする園は4~5割。「子どもが自身の活動を振り返る」は園種による違いが大きく、幼稚園では3割、保育所・認定こども園では1~2割であった(図表3-2-1)。園の区別別にみると、幼稚園では国公立と私立の差がみられる項目が多かったが、保育所では公営・私営の差はあまりみられなかった。幼稚園、認定こども園では、「子どもが自身の活動を振り返る」において「よくする」の比率は、国公立・公営の方が私立・私営よりも10ポイント以上高かった(図表3-2-2)。

Q 貴園では、以下のことをどれくらい行っていますか。

図表3-2-1 園での対話の機会(幼稚園・保育所・認定こども園 23年)

保育者回答



図表3-2-2 園での対話の機会(園の区別別 23年)

保育者回答

	幼稚園		保育所		認定こども園	
	国公立	私立	公営	私営	公営	私営
保育者が子どもの姿の記録をとる	64.8	>	56.6	63.1	67.9	64.8
保育者が主任や園長に相談する	62.5	>	55.1	53.7	49.8	50.9
保育者同士で振り返りを行い、保育の見直しをする	55.1	>	50.1	42.8	43.5	44.8
保護者と保護者が子どもの姿や育ちを話し合う	49.0	>	43.9	43.0	44.9	44.6
子どもが自身の活動を振り返る	44.6	>	25.2	17.5	19.0	31.8
地域の小学校の教員と、子どもの姿や育ちを話し合う	6.5		5.1	4.2	4.8	5.5

※ 「よくする」の%

※ 国公立幼稚園の降順で表示

※ >とくは5ポイント以上の差を示しており、そのうち10ポイント以上の差は青数字にしている

3-3 心情・意欲・態度に関する育ちの捉え(4・5歳児)

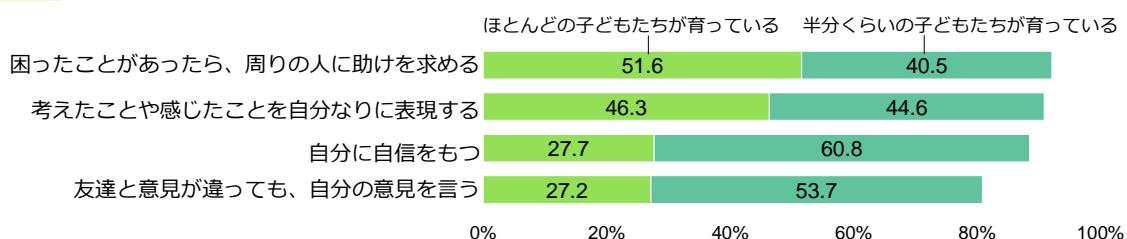


保育者からみて、4・5歳児の「ほとんどの子どもたちが育っている」心情・意欲・態度として、もっとも高かったのは「遊びなどで友達と協力する」力。

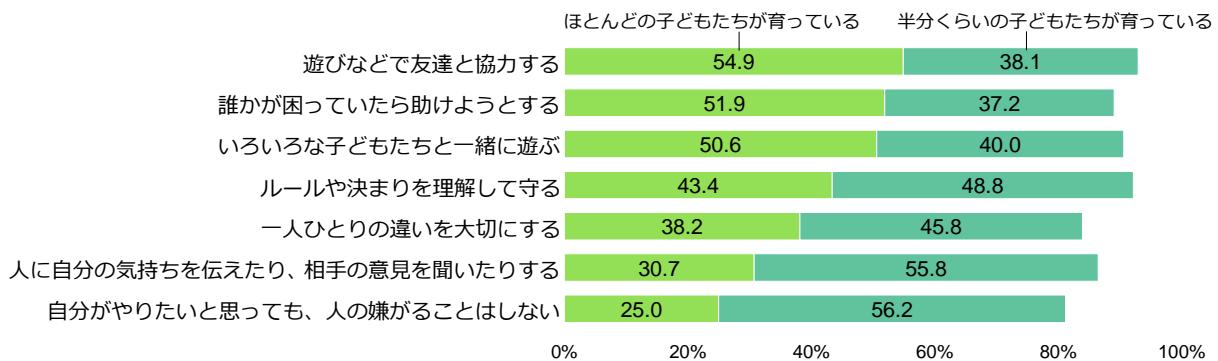
すべての園種の4・5歳児を担当する保育者に、心情・意欲・態度に関する17項目について、クラスの子どもたちのどのくらいが育っているかを回答してもらった。17項目を「自己主張・自己表現」「協調性・共感性」「好奇心・がんばる力」の3つの領域に分けて分析したところ、どの領域もまんべんなく育っているが、「遊びなどで友達と協力する」など「協調性・共感性」の育ちが高めである。一方で、「自分に自信をもつ」(27.7%)「友達と意見が違っても、自分の意見を言う」(27.2%)、「自分がやりたいと思っても、人の嫌がることはしない」(25.0%)、「目標に向かって粘り強くやり抜く」(27.0%)、「十分に試行錯誤して工夫する」(19.0%)などは他と比べて低い傾向がみられた。

Q あなたのクラスの子どもたちは、以下のような心情・意欲・態度がどのくらい育っていると思いますか。

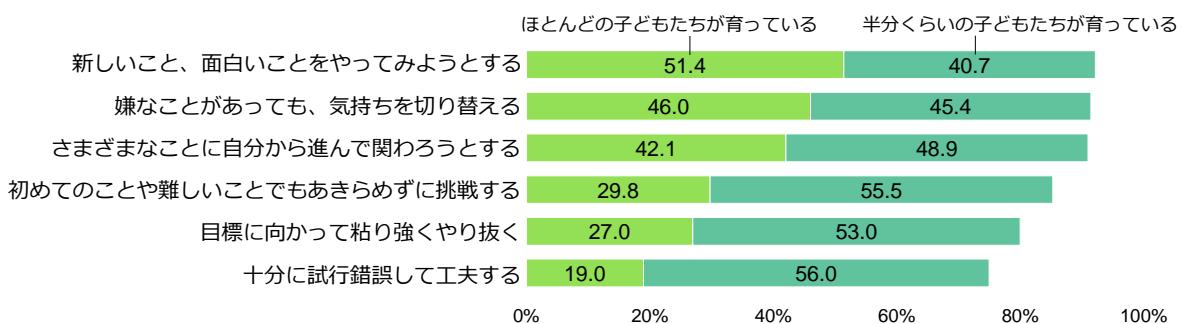
図表3-3-1 心情・意欲・態度に関する育ちの捉え【自己主張・自己表現】(全体 23年) 保育者回答



図表3-3-2 心情・意欲・態度に関する育ちの捉え【協調性・共感性】(全体 23年) 保育者回答



図表3-3-3 心情・意欲・態度に関する育ちの捉え【好奇心・がんばる力】(全体 23年) 保育者回答



※ 次の4件法でたずねた。「ほとんどの子どもたちが育っている」「半分くらいの子どもたちが育っている」「一部の子どもたちが育っている」「ほとんどの子どもたちが育っていない」

※ 「ほとんどの子どもたちが育っている」の降順で図示 (図表3-3-1～図表3-3-3)

※ すべての園種の4・5歳児クラスの担当者のみ回答 (図表3-3-1～図表3-3-3)

※ 异年齢クラスの場合は、4歳・5歳の子どもたちを全体とした場合の割合を回答



3-4 保育者の資質向上のために必要なこと

保育者の資質向上のために必要なことは、「給与面での待遇改善」「職員配置基準の改善」。保育者は「メンタル面のサポート」も重視。

保育者の資質向上のために必要なこととして、園長・保育者ともに17項目から3つまで選んでもらった。園長回答で、2018年から変化が大きかったものは、「保育者の給与面での待遇改善」「職員配置基準の改善」であった。「職員配置基準の改善」はどの園種でも10ポイント以上増えている(図表3-4-1)。園長と保育者で比較すると、保育者のほうが「職員配置基準の改善」「保育者の給与面での待遇改善」「保育者のメンタル面のサポート」で高くなっている。また、保育者は「保育者のメンタル面のサポート」が高い一方で、園長は研修に関する項目が高い結果となった(図表3-4-2)。

Q 貴園の保育者の資質が向上するために特に必要だと思うことについて、3つまで選択してください。

図表3-4-1 保育者の資質の向上のために必要なこと(園の区分別 経年比較)

園長回答

(%)

	幼稚園		保育所				認定こども園					
	国公立		私立		公営		私営		公営			
	2018	2023	2018	2023	2018	2023	2018	2023	2018	2023		
保育者の給与面での待遇改善	12.5	< 25.4	36.5	< 44.1	17.7	< 26.4	32.3	< 45.5	18.9	22.9	25.5 < 43.1	
職員配置基準の改善	20.1	< 36.7	11.0	< 25.7	33.6	< 60.4	25.3	< 58.5	26.9	< 50.2	18.3 < 46.5	
保育者同士が学び合う園の風土づくり	30.7	< 37.2	39.0	39.4	32.9	< 43.8	42.5	43.1	40.8	40.1	45.8 > 39.7	
園内研修の内容の充実	38.6	> 33.6	27.8	25.7	27.3	22.8	23.5	19.3	29.9	32.3	28.2 > 22.7	
研修に参加する機会の保障	24.3	25.8	20.4	20.2	25.6	23.9	25.3	22.6	27.9	28.3	27.6 > 21.5	
保育者のメンタル面のサポート	8.9	11.6	16.6	21.4	15.8	16.7	19.9	18.2	10.0	< 16.1	18.0	20.5

※ 複数回答(3つまで)

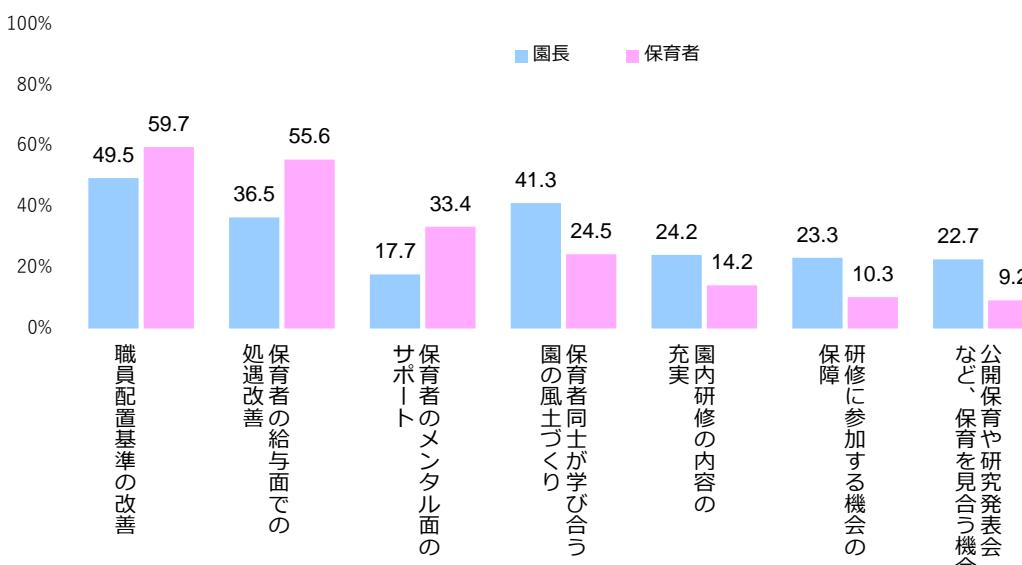
※ 「その他」を含めた16項目のうち、とくに変化がみられた6項目のみ表示

※ >とくは5ポイント以上の差を示しており、そのうち10ポイント以上の差は青数字、20ポイント以上の差は赤数字にしている

図表3-4-2 保育者の資質の向上のために必要なこと(全体 23年)

園長回答

保育者回答



※ 複数回答(3つまで)

※ 「その他」を含めた16項目のうち、園長と保育者の回答でとくに差がみられた7項目のみ図示



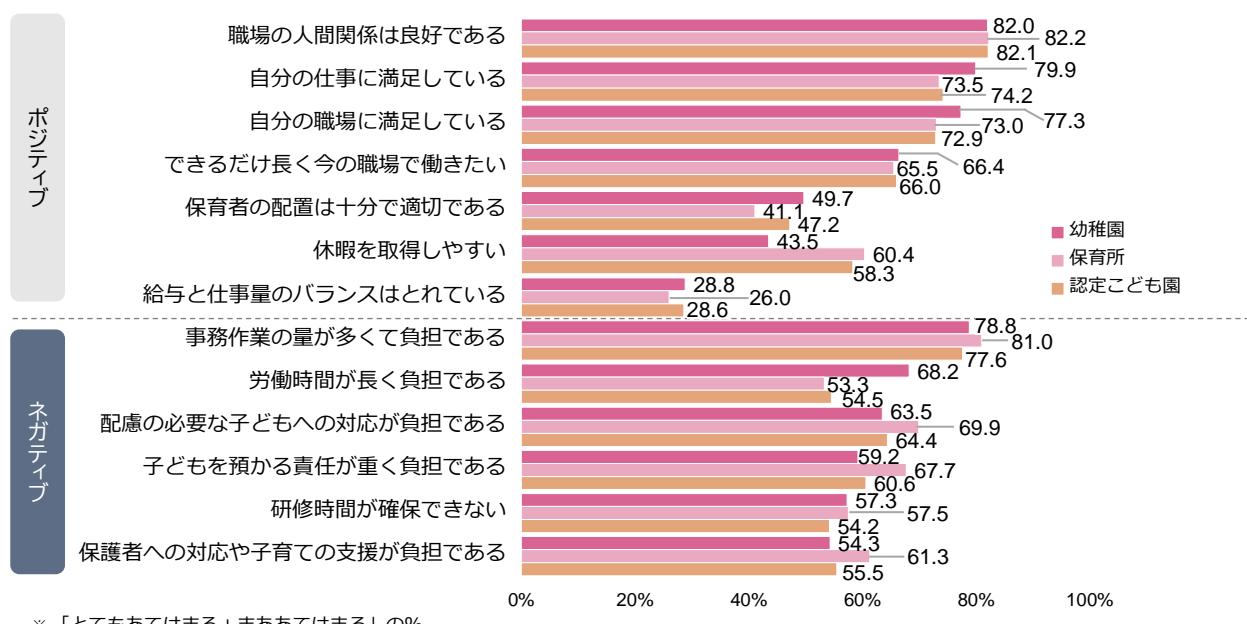
3-5 保育者の仕事満足感・負担感

保育者は自分の職場や仕事に満足している一方、給与と仕事量のバランスは悪く、事務作業の量が多くて負担であると感じている。

「職場の人間関係は良好である」「自分の仕事に満足している」「自分の職場に満足している」はどの園種も7~8割と高い。一方で、「保育者の配置は十分で適切である」は保育所が低い傾向にある。「給与と仕事量のバランスはとれている」はどの園種でも低く、約2割となっている(図表3-5-1)。仕事への負担感では「事務作業の量が多くて負担である」「労働時間が長く負担である」「配慮の必要な子どもへの対応が負担である」「子どもを預かる責任が重く負担である」と回答した比率が高い。仕事への負担感は、とくに国公立・公営の園が高い傾向にある(図表3-5-2)。

Q あなたの仕事での満足感と負担感について、それぞれあてはまるものを1つ選択してください。

図表3-5-1 保育者の仕事満足感・負担感(幼稚園・保育所・認定こども園 23年) 保育者回答



※ 「とてもあてはまる+まああてはまる」の%

※ ポジティブ、ネガティブな項目ごとに、幼稚園の降順で図示

図表3-5-2 保育者の仕事満足感・負担感(園の区分別 23年) 保育者回答

項目	幼稚園 (%)		保育所 (%)		認定こども園 (%)	
	国公立	私立	公営	私営	公営	私営
職場の人間関係は良好である	82.3	81.9	81.2	82.9	78.3	82.9
自分の仕事に満足している	79.2	80.6	74.3	72.8	72.5	74.4
自分の職場に満足している	78.4	76.8	73.6	72.6	70.0	73.5
できるだけ長く今の職場で働きたい	67.7	65.6	63.7	66.7	61.5	67.0
保育者の配置は十分で適切である	50.5	49.3	36.9	< 44.2	41.7	< 48.6
休暇を取得しやすい	46.4	41.6	54.0	< 64.9	50.9	< 60.0
給与と仕事量のバランスはとれている	31.5	27.0	28.8	24.3	23.6	< 29.6
事務作業の量が多くて負担である	86.9	> 73.1	86.2	> 77.2	85.1	> 75.9
労働時間が長く負担である	73.5	> 64.3	62.3	> 47.0	68.4	> 51.2
配慮の必要な子どもへの対応が負担である	61.5	64.8	73.9	> 67.1	65.8	64.3
子どもを預かる責任が重く負担である	66.0	> 54.3	76.2	> 61.9	72.9	> 57.7
研修時間が確保できない	61.9	> 54.0	62.9	> 53.9	62.4	> 52.3
保護者への対応や子育ての支援が負担である	56.9	52.3	67.5	> 57.0	62.8	> 54.0

※ 「とてもあてはまる+まああてはまる」の%

※ >とくは5ポイント以上の差を示しており、そのうち10ポイント以上の差は青数字にしている



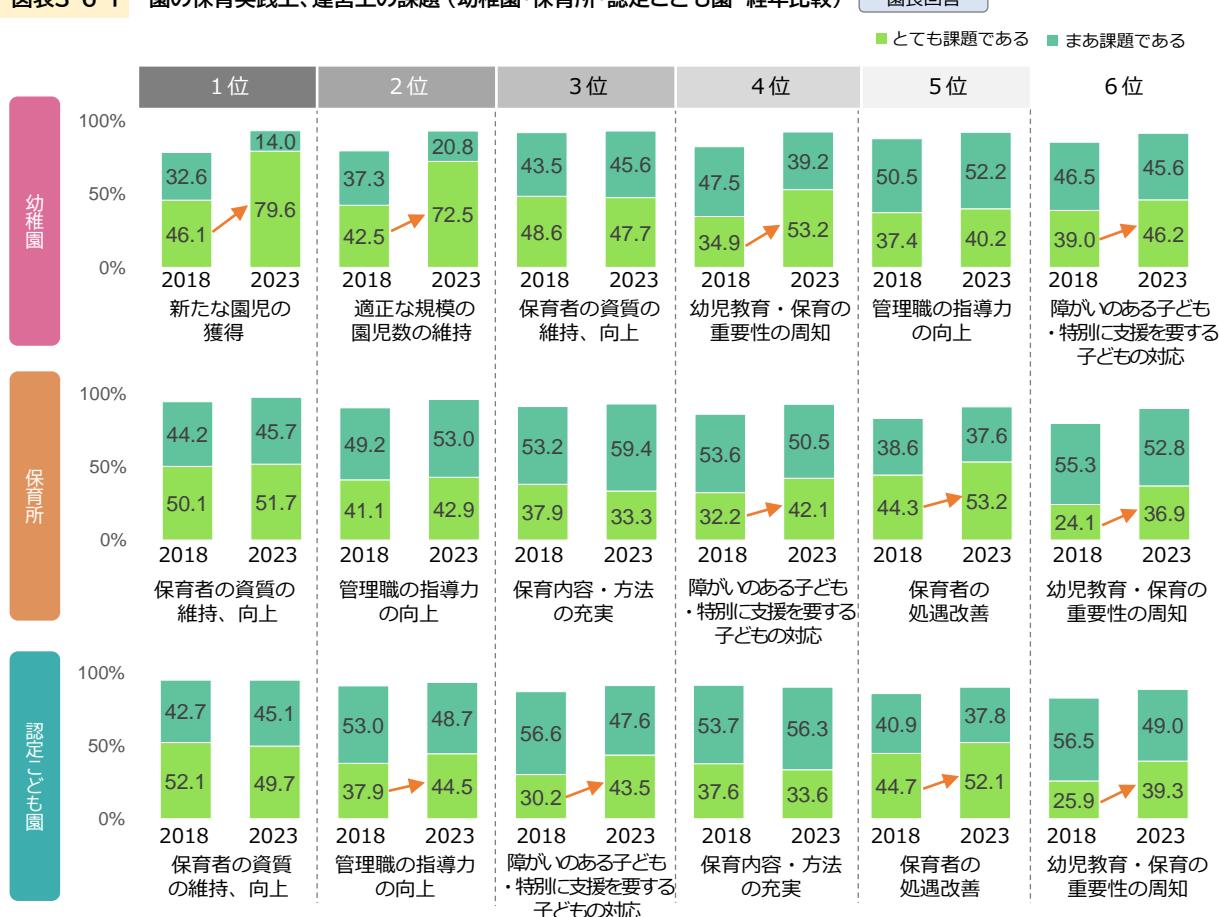
3-6 園の保育実践上、運営上の課題

幼稚園では、「新たな園児の獲得」「適正な規模の園児数の維持」が課題に。

幼稚園では「新たな園児の獲得」「適正な規模の園児数の維持」の課題が増加し、上位にあがってきている。保育所では「障がいのある子ども・特別に支援を要する子どもの対応」「保育者の処遇改善」「幼児教育・保育の重要性の周知」が、認定こども園では「管理職の指導力の向上」「障がいのある子ども・特別に支援を要する子どもの対応」「保育者の処遇改善」「幼児教育・保育の重要性の周知」が増加している(図表3-6-1)。園の区分別でみると、「施設・設備の充実」「安全・防犯の取り組み」「予算(補助金、保育料等)の確保」「新たな園児の獲得」「適正な規模の園児数の維持」「保育者の定着・確保」といった園環境や体制面での課題に差がみられた(図表3-6-2)。

Q 貴園の保育実践上、運営上の課題についておたずねします。それぞれあてはまるものを1つ選択してください。

図表3-6-1 園の保育実践上、運営上の課題(幼稚園・保育所・認定こども園 経年比較)



※ 「もともと課題である+まあ課題である」の%

※ 23年の数値をもとに上位6項目を左から図示

図表3-6-2 園の保育実践上、運営上の課題(園の区分別 23年)

園長回答

(%)

	幼稚園		保育所		認定こども園	
	国公立	私立	公営	私営	公営	私営
施設・設備の充実	75.3	77.3	84.7	> 69.5	74.9	> 66.4
安全、防犯の取り組み	79.3	76.0	86.5	> 71.5	80.3	> 70.0
予算(補助金、保育料等)の確保	69.9	< 92.8	67.5	< 82.1	66.6	< 82.9
新たな園児の獲得	90.2	< 97.3	38.9	< 68.6	45.2	< 78.9
適正な規模の園児数の維持	90.4	< 96.8	57.6	< 72.9	59.5	< 81.1
保育者の定着・確保	79.3	< 89.3	84.4	83.9	86.0	83.5
自己評価、自己点検の実施	64.1	< 73.8	77.6	73.6	63.0	< 73.1

※ 「もともと課題である+まあ課題である」の%

※ いすれかの園種において、国公立・公営と私立・私営で10ポイント以上の差がみられた項目のみ表示

※ >と<は5ポイント以上の差を示しており、そのうち10ポイント以上の差は青数字、20ポイント以上の差は赤数字にしている



3-7 自由記述からみえてきた課題

保育者の自由記述では、「障がい・特別な支援を要する子ども、保護者への対応」「保育者の人手不足」に関する課題が多くみられた。

保育者の自由記述の回答のうち「課題」に関する内容をみると、「障がいのある子ども・特別な支援を要する子ども、保護者への対応」、「保育者の人手不足」、「研修時間、職員間の話し合い時間の確保」、「子ども主体の保育、遊び時間の確保」が難しいことに関する回答が多くを占めた。

Q 日々、幼児教育・保育を実践される中でお感じになる、子どもや保護者の様子、貴園における幼児教育・保育の質を高めるために感じられている実践上の課題、よりよい幼児教育・保育の実践のためのご要望、日々の喜びやご苦労など、ご自由にお書きください。

保育者回答

障がいのある子ども・特別な支援を要する子ども、保護者への対応

気になる子どもや障がいのある子どもへの配慮の部分が課題。担任がクラスの子どもと一緒に見守りをしているが、やはり手薄に感じてしまう。どこまで援助すればいいのか悩んでしまい、配慮と過度な援助の境目がわからなくなることがある。
(私営認定こども園)

これからさらに支援の必要な子どもや保護者が増えていくことが予想されるなか、自分のスキルアップと共に、人材をどう育てていけば良いのか、課題に感じている。子どもや保護者への関わり方を保育者が学べる機会があると良い。
(私立幼稚園)



保育者の人手不足

保育の質を高めるための課題としては、実践してみたいことは多くあるが、すべき業務が多く、それらを準備する時間、体力、気力的に余裕がなく難しい。フォローなどの人材の余裕もない。日々子どもたちと関わる中で、成長を感じることが多く、保護者の方と共有したり感謝されたり、やりがいは感じている。
(私営保育所)

日々子どもたちと向き合うなかで、子どもの気づきや感性に驚いたり、成長を感じたり、信頼関係ができお互い心地よく保育や行事が進む経験が仕事のやりがいにつながっている。しかし人員不足や、仕事量の多さ、ひとつひとつの家庭や課題の解決などもあり、休むことが難しく、プライベートとの両立には厳しさを感じることも多々ある。
(国公立幼稚園)



研修時間、職員間の話し合い時間の確保

保育所は職員が多く、研修や話し合いは必要不可欠なはずだが、研修に費やす時間はわずかしかとれない。今後は一人ひとりの保育時間がますます長くなり、子どもと保護者の双方の育ちを支える必要が出てくるので、さらにとれなくなる。
(公営保育所)

保育を高めるために感じている実践上の課題は、日々の保育に追われ、園内研修や園外の研修に行く機会がなかなかないということ。また、お互いに先生たちが保育を見合ったり、他の園へ行って保育を見る機会がなく、自分たちの保育で満足してしまっている。保育の質を高めるには、そのような機会をたくさんつくり、さまざまなことを学ぶ必要があると思う。
(私立幼稚園)

子ども主体の保育、遊び時間の確保

子どもに寄り添った自由な遊びをさせてあげたいという気持ちはあるが、やはり配慮や見守りが必要な場面が多く、職員の都合で遊びに制限をかけてしまうことがあるため、その部分に悩んでいる。
(私営認定こども園)



子ども主体の保育に変わりつつある今、保育を振り返ったりしながら進めている。しかし、一斉保育が残りつつあるところもあり、日々職員と話しながら子どもたちと関わっている。子ども主体の保育を保護者にも伝えているが、浸透していない。特に行事等は、ちょっと無理をしてでも実施を望む意見がある。今後、子ども主体を保護者、小学校へどのように伝え続けていくのかが課題だと感じている。
(公営認定こども園)

※ 自由記述の末尾にある（ ）内は、保育者が所属する園種を表している